

First Hit

Generate Collection

Print

L4: Entry 1 of 2

File: JPAB

Jul 21, 1999

PUB-NO: JP411195068A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11195068 A

TITLE: SCHEDULE MANAGING SYSTEM AND METHOD FOR CONTROLLING ITS PROCESSING

PUBN-DATE: July 21, 1999

## INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

ISHIZAKI, YUTAKA

SUGANUMA, NORITO

## ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

HITACHI LTD

APPL-NO: JP10001323

APPL-DATE: January 7, 1998

INT-CL (IPC): G06 F 17/60; G06 F 3/00

## ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an easy and easily memorizable operation method for executing a main work such as referring to the schedule of a selected member or referring to the schedule of a selected date in a schedule managing system.

SOLUTION: Software parts indicating schedules, members or dates are moved between parts constituting GUI by an input device 101 such as a pointing device, etc. When the parts are superimposed on another ones, the parts constituting the GUI of a movement destination judge the kinds of the superimposed software parts so as to sort processings. Thus, the main work is executed by the simple operation method such as the superimposition of the software parts.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-195068

(43)公開日 平成11年(1999) 7月21日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

G 0 6 F 17/60  
3/00

識別記号

6 5 7

F I

G 0 6 F 15/21  
3/00

L

6 5 7 A

審査請求 有 請求項の数 1 O L (全 22 頁)

(21)出願番号 特願平10-1323

(22)出願日 平成10年(1998) 1月 7 日

(71)出願人 000005108

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台四丁目 6 番地

(72)発明者 石▲崎▼ 裕

東京都江東区新砂一丁目 6 番27号 株式会  
社日立製作所公共情報事業部内

(72)発明者 菅沼 憲人

東京都江東区新砂一丁目 6 番27号 株式会  
社日立製作所公共情報事業部内

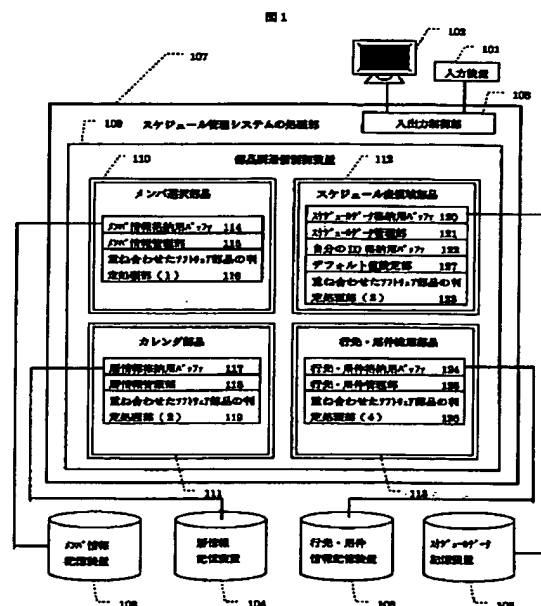
(74)代理人 弁理士 小川 勝男

(54)【発明の名称】 スケジュール管理システム及びその処理制御方法

(57)【要約】

【課題】スケジュール管理システムにおいて、選択したメンバのスケジュールを参照したり、選択した日付のスケジュールを参照する等の主要な作業を行うための、簡単かつ覚えやすい操作方法を提供する。

【解決手段】ポインティングデバイス等の入力装置101により、スケジュールやメンバや日付を示すソフトウェア部品を、GUIを構成する部品間で移動し、他の部品上に重ね合わせたとき、移動先のGUIを構成する部品が、重ねられたソフトウェア部品の種類を判定し、処理を振り分ける。これよりソフトウェア部品の重ね合せという簡単な操作方法で、主要な作業を行えるようにする。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】日付、時間、用件の情報を含むスケジュールデータを格納するスケジュールデータ記憶装置と、ユーザID、ユーザ名、個人かグループかを示すフラグ及びそのメンバが属する階層のID情報を含むメンバ情報を格納するメンバ情報記憶装置と、暦情報を格納する暦情報記憶装置と、複数の部品を含むGUI画面を表示する表示装置と、GUI画面上の任意の位置の指定と画面の指定した部分への操作に対応した入力を行う入力装置と、上記入力装置を用いてGUI画面を構成するある部品上の移動可能なソフトウェア部品を選択し、それを移動して他のGUI画面を構成する部品に重ね合わせた場合、そのソフトウェア部品が重ね合わされたことを移動先の部品に伝える機能を有する部品間通信制御部とを具備するスケジュール管理システム。

【請求項2】請求項1記載のスケジュール管理システムにおいて、GUI画面を構成する部品として、暦情報記憶装置から暦情報を取得する機能と、それを一時的に格納する暦情報記憶領域と、取得した暦情報を基に日付を示すソフトウェア部品をカレンダー形式で表示する機能と、上記入力装置により、ソフトウェア部品が重ね合わされた場合、そのソフトウェア部品の種類により処理を振り分ける機能とを有するカレンダー部品と、スケジュールデータ記憶装置よりスケジュールデータを取得する機能と、それを一時的に格納するスケジュールデータ記憶領域と、取得したスケジュールデータを基にそのスケジュールを示すソフトウェア部品を時間軸とメンバ軸で構成されるスケジュール画面の対応する場所にグラフィカルに表示する機能と、その上に上記ソフトウェア部品の重ね合わせ手段によりソフトウェア部品が重ね合わされた場合、そのソフトウェア部品の種類により処理を振り分ける機能とを有するスケジュール表示領域部品とを具備し、上記ポインティングデバイス等の入力装置により、日付を示すソフトウェア部品を、カレンダー部品からスケジュール表示領域部品に重ね合わせた場合、そのソフトウェア部品の情報は上記部品間通信制御部によりカレンダー部品からスケジュール表示領域部品に伝えられ、これによりそれが日付を示す種類のソフトウェア部品であるとスケジュール表示領域部品が判定し、指定した日付のスケジュールデータの参照処理を選択することを特徴とする処理制御方法。

【請求項3】請求項1記載のスケジュール管理システムにおいて、GUI画面を構成する部品として、上記スケジュール表示領域部品と、メンバ情報記憶装置よりメンバ情報を取得する機能と、それを一時的に保持するメンバ情報記憶領域と、取得したメンバ情報を基にメンバを示すソフトウェア部品を階層的に表示する機能と、その上に上記ポインティングデバイス等の入力装置により、ソフトウェア部品が重ね合わされた場合、そのソフトウェア部品の種類により処理を振り分ける機能とを有するメ

ンバ選択部品とを具備し、上記ポインティングデバイス等の入力装置により、メンバを示すソフトウェア部品をメンバ選択部品からスケジュール表示領域部品へ移動し重ね合わせた場合、そのソフトウェア部品の情報は上記部品間通信制御部によりメンバ選択部品からスケジュール表示領域部品へ伝えられ、これによりそれがメンバを示す種類のソフトウェア部品であるとスケジュール表示領域部品が判定し、メンバのスケジュール参照処理を選択する方法と、その処理を行う際にそのソフトウェア部品の有する情報によりそのメンバが個人かグループかの判定を行い、それにより処理を選択することを特徴とする処理制御方法。

【請求項4】請求項4記載の処理制御方法において、上記ポインティングデバイス等の入力装置により、上記スケジュール表示領域部品上のスケジュール画面に表示されているメンバを示すソフトウェア部品を、上記メンバ選択部品に重ね合わせた場合、そのソフトウェア部品の情報は上記部品間通信制御部によりスケジュール表示領域部品からメンバ選択部品へ伝えられ、これによりそれがメンバを表現する種類のソフトウェア部品であるとメンバ選択部品が判定し、スケジュール画面からそのメンバのスケジュールを削除する処理を選択することを特徴とする処理制御方法。

【請求項5】請求項4記載の処理制御方法において、上記ポインティングデバイス等の入力装置により、スケジュール表示領域部品上のスケジュール画面に表示されているスケジュールデータを示すソフトウェア部品を、メンバ選択画面に重ね合わせた場合、そのソフトウェア部品の情報は上記部品間通信制御部によりスケジュール表示領域部品からメンバ選択部品へ伝えられ、これによりそれがスケジュールデータを示す種類のソフトウェア部品であるとメンバ選択部品が判定し、メンバ選択部品で選択されているメンバにそのスケジュールデータと同様の内容のスケジュールを登録する処理を選択することを特徴とする処理制御方法。

【請求項6】請求項1記載のスケジュール管理システムにおいて、GUI画面を構成する部品として、上記スケジュール表示領域部品と、スケジュールデータの一部である行先と用件の情報を格納する行先・用件情報記憶装置と、GUI画面の一構成部品であり、行先情報と用件情報を行先・用件情報記憶装置より取得する機能と、その上に上記ポインティングデバイス等の入力装置により、ソフトウェア部品がGUI画面を構成する何れかの部品上に重ね合わされた場合、そのソフトウェア部品の種類により処理を振り分ける機能とを有する行先・用件流用部品とを具備し、上記ポインティングデバイス等の入力装置により、行先情報を示すソフトウェア部品を行先・用件流用部品からスケジュール表示領域部品へ重ね合わせた場合、そのソフトウェア部品の情報は上記部品間通信制御部109により行先・用件登録部品からスケジュール表

示領域部品へ伝えられ、これによりそれが行先情報を示す種類のソフトウェア部品であるとスケジュール表示領域部品が判定し、新規に登録するスケジュールデータの行先に、そのソフトウェア部品が示す行先情報を設定する処理を選択することを特徴とした処理制御方法。

【請求項7】請求項7記載の処理制御方法において、上記ポインティングデバイス等の入力装置により、用件情報を示すソフトウェア部品を行先・用件流用部品からスケジュール表示領域部品へ重ね合わせた場合、そのソフトウェア部品の情報は上記部品間通信制御部により行先・用件登録部品からスケジュール表示領域部品へ伝えられ、これによりそれが用件情報を示す種類のソフトウェア部品であるとスケジュール表示領域部品が判定し、新規に登録するスケジュールデータの用件に、そのソフトウェア部品が示す用件情報を設定する処理を選択することを特徴とした処理制御方法。

【請求項8】請求項7記載の処理制御方法において、上記ポインティングデバイス等の入力装置により、スケジュールデータを示すソフトウェア部品を、スケジュール表示領域部品から行先・用件登録部品に重ね合わせた場合、そのソフトウェア部品の情報は上記部品間通信制御部によりスケジュール表示領域部品から行先・用件登録部品へ伝えられ、これによりそれがスケジュールを示すソフトウェア部品であると行先・用件登録部品が判定し、そのソフトウェア部品が有する行先情報と用件情報を新規に登録する処理を選択することを特徴とする処理制御方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、スケジュール管理システムに関し、特にソフトウェア部品間連携による処理に関する。

【0002】

【従来の技術】従来のスケジュール管理システムでは、例えば特開平1-173259にあるように、何か作業をする場合、どのような作業をするかを画面に表示されたアイコンで指定するか、またはメニューで指定する必要がある。最近のスケジュール管理システムでは、機能が豊富になるにつれ、アイコンやメニューの数が増大している。そのため、作業時に指定したいアイコンやメニューを探すのが煩わしくなる。また、メニューとアイコンの配置を覚えるのが大変である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来のスケジュール管理システムにおいては、メンバのスケジュール参照、任意の日付のスケジュールの参照等使用頻度の高い主要な処理であっても、ユーザが行いたい処理を一々メニュー等で選択する必要があるものが多く、操作が煩わしかった。また、主要な処理の多くをメニュー等で選択するため、どこにどのようなメニューがあるのかを覚える必要

があり、操作に慣れるまで時間を要する。このように、従来のスケジュール管理システムでは操作性という点についてあまり配慮がなされていないため、操作方法が分かりづらく、ユーザが操作に慣れるまでに手間がかかるという問題があった。本発明の目的は、これらの問題点を改善し、簡略化されたスケジュール操作手段を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明のスケジュール管理システムでは、スケジュールデータを格納するスケジュールデータ記憶装置と、メンバ情報を格納するメンバ情報記憶装置と、暦情報を格納する暦情報記憶装置と、GUI画面上の任意の位置を指定するポインティングデバイス等の入力装置と、GUI画面を構成する部品と、上記入力装置を用いてGUI画面を構成するある部品上の移動可能なソフトウェア部品を選択し、それを移動して他のGUI画面を構成する部品に重ね合わせた場合、そのソフトウェア部品が重ね合わされたことを移動先の部品に伝える機能を有する部品間通信制御部とを具備し、ソフトウェア部品を、GUI画面を構成するある部品から、GUI画面を構成する別の部品へ重ね合わせたとき、部品間通信制御部から通知されたソフトウェア部品の種類により、処理を制御することを特徴とする方法により、上記目的を達成する。

【0005】

【発明の実施の形態】図1は本発明の一実施例にかかるスケジュール管理システムのシステム構成図である。スケジュール管理システムは、位置情報を入力するポインティングデバイス等の入力装置101と、表示装置102と、メンバ情報記憶装置103と、暦情報記憶装置104と、スケジュールデータ記憶装置105と、行先・用件情報記憶装置106と、処理部107とを具備する。

【0006】メンバ情報記憶装置103は、図2に示すようにユーザID201と、ユーザ名202と、種別203と、親のID204を含む項目から構成されるメンバ情報を記憶する装置である。種別203は、メンバが個人なのか、それとも個人の集まりであるグループなのかを判別するためのフラグである。親のID204は、メンバ情報を階層的に管理するために必要な項目である。例えば、図7のメンバ選択部品701上に示すようなメンバの階層構造は、図2に示すデータ構造で表現できる。

【0007】暦情報記憶装置104は、暦情報を記憶する装置である。

【0008】スケジュールデータ記憶装置105は、図3に示すようにユーザID301と、日付302と、開始時間303と、終了時間304と、用件305と、行先306を含む項目から構成されるスケジュールデータを記憶する装置である。ユーザID301は、スケジュールの所有者を示す項目である。行先305はスケジュールの用件が実施される場所を示す項目である。

【0009】行先・用件情報記憶装置106は、図5(a)に示すようにユーザID501と行先502を含む行先情報と、ユーザID504と用件503を含む用件情報を記憶する装置である。予め頻繁に使う行先情報と、用件情報を登録しておけば、スケジュールを新規に登録する際、それらを流用することで、何度も同じ行先、用件をわざわざキーボードで入力する必要がなくなる。

【0010】次に、スケジュール管理システムの処理部107について説明する。処理部107は、入出力制御部108と、部品間通信制御部109と、メンバ選択部品110と、カレンダー部品111と、スケジュール表示領域部品112と、行先・用件流用部品113とを含む。

【0011】入出力制御部108は、ポインティングデバイス等の入力装置101からの入力情報を処理部107に伝えたり、逆に処理部からのデータを表示装置102に表示する処理を行う。

【0012】部品間通信制御部109は、ポインティングデバイス等の入力装置101により、ソフトウェア部品が、GUI画面を構成するある部品から他の部品上に移動し重ね合わされた場合、移動先の部品に、そのソフトウェア部品が重ね合わされたことを通知する機能を有する。これによりGUI画面を構成する部品間の連携が可能になる。

【0013】メンバ選択部品110は、メンバ情報格納用バッファ114と、メンバ情報管理部115と、重ね合わせたソフトウェア部品の判定処理部(1)116とを含む。メンバ情報格納用バッファ114は、メンバ情報を一時的に格納する記憶領域である。メンバ情報管理部115は、メンバ情報記憶装置103に記憶されている図2に示すようなメンバ情報を取得し、それをメンバ情報格納用バッファ114に格納する処理を行う。また、メンバ情報格納用バッファ114に格納されているメンバ情報を表現するソフトウェア部品を、図7に示すようにメンバ選択部品701上に階層的に表示する処理を行う。704はグループメンバを示すソフトウェア部品であり、705は個人メンバを示すソフトウェア部品である。重ね合わせたソフトウェア部品の判定処理部(1)116は、部品間通信制御部109により、メンバ選択部品上に重ね合わされたソフトウェア部品が通知されると、そのソフトウェア部品の種類により処理を選択する。

【0014】カレンダー部品111は、暦情報格納用バッファ117と、暦情報管理部118と、重ね合わせたソフトウェア部品の判定処理部(2)119を含む。暦情報格納用バッファ117は、年月日、曜日を含む暦情報を一時的に格納する記憶領域である。暦情報管理部118は、暦情報記憶装置104から暦情報を取得し、それを暦情報格納用バッファ117に格納する処理を行う。また、暦情報管理部118は、暦情報格納用バッファ117に格納されている日付の情報を表現するソフトウェア部品を、図7に示すようにカレンダー部品702上にカレンダー形式で表示する処理を行

う。706は日付の情報を示すソフトウェア部品である。重ね合わせたソフトウェア部品の判定処理部(2)119では、部品間通信制御部109により、カレンダー部品上に重ね合わされたソフトウェア部品が通知されると、そのソフトウェア部品の種類により処理を選択する。

【0015】スケジュール表示領域部品112は、スケジュールデータ格納用バッファ120と、スケジュールデータ管理部121と、自分のID格納用バッファ122と、重ね合わせたソフトウェア部品の判定処理部(3)123と、デフォルト値設定部127とを含む。スケジュールデータ格納用バッファ120は、スケジュールデータ管理部121がスケジュールデータ記憶装置105より取得したスケジュールデータに、図4に示すように操作権限401という新たな項目を追加したスケジュールデータを一時的に格納する記憶領域である。操作権限401とは、そのスケジュールを変更したり削除したりする権限をユーザに与えるかどうかを設定するための項目である。スケジュールデータ管理部121は、スケジュールデータ格納用バッファ120に格納されたスケジュールデータを表現するソフトウェア部品を、図7に示すようにスケジュール表示領域部品703上のスケジュール画面707に表示する処理を行う。また、スケジュールを参照しているメンバを示すソフトウェア部品もスケジュール画面707上に表示する。図7のスケジュール表示領域部品703は、スケジュールデータ格納用バッファ120に図4に示すようなスケジュールデータが格納されている場合の表示例を示す。710と711は、それぞれイ君のスケジュールデータと、ロ君のスケジュールデータを示すソフトウェア部品である。また、708と709は、それぞれイ君というメンバと、ロ君というメンバを示すソフトウェア部品である。この他、スケジュールデータ管理部121は、スケジュールの参照、登録、変更、削除にかかわる処理を行う。自分のID格納用バッファ122は、ユーザがスケジュール管理システムを開始する際に、入力したユーザIDを一時的に格納する記憶領域である。これは、スケジュールデータの操作権限401を設定する際等に利用される。一般に、スケジュールの操作権限401はそのスケジュールが自分のものであるかどうかを考慮して設定されるため、システムは自分が誰であるかを知っておく必要がある。重ね合わせたソフトウェア部品の判定処理部(3)123は、部品間通信制御部109により、スケジュール表示領域部品上に重ね合わされたソフトウェア部品が通知されると、そのソフトウェア部品の種類により処理を選択する。デフォルト値設定部127には、スケジュールデータの参照、登録、複写、移動等を行う際、メンバや日付が指定されなかったときに用いるメンバと日付のデフォルト値や、デフォルト値を決めるルール等を設定しておく。デフォルトの日付には、今日の日付が考えられる。また、他人のスケジュールに選択したスケジュールデータを登録する場合は、デフォルトの日付として、選択したスケジュールデータの日付情報

等が考えられる。デフォルトのメンバには、自分や、スケジュール画面707に表示されているメンバ等が考えられる。また、スケジュールの複写、移動の場合は、デフォルトのメンバとして、選択したスケジュールの所有者等が考えられる。

【0016】行先・用件登録部品113は、行先・用件格納用バッファ124と、行先・用件管理部125と、重ね合わせたソフトウェア部品の判定処理部(4)126を含む。行先・用件格納用バッファ124は、行先情報と用件情報を一時的に格納する記憶装置である。行先・用件管理部125は、自分のユーザIDを含む行先情報と用件情報を行先・用件記憶装置106より取得し、それを行先・用件格納用バッファ124に格納する処理を行う。また、行先・用件格納用バッファ124に格納されている行先情報と用件情報とを表現するソフトウェア部品の、図8に示すように行先・用件流用部品801上に表示する処理を行う。例えば、自分のユーザIDを「USER001」とすると、図5(a)に示す行先情報と、図5(b)に示す用件情報が記憶されている行先・用件情報記憶装置106から、「USER001」を含む図5(a)の項番1～項番3の行先情報と、「USER001」を含む図5(b)の項番1～項番3の用件情報を取得し、それを行先・用件格納用バッファ124内に格納する。また、格納された図6(a)の項番1～項番3の行先情報と、図6(b)の項番1～項番3の用件情報は、図8に示すように、行先・用件流用部品801上に表示される。重ね合わせたソフトウェア部品の判定処理部(4)126は、部品間通信制御部109により、行先・用件流用部品801上に重ね合わされたソフトウェア部品の種類により処理を選択する。

【0017】次に、本発明の一実施例のスケジュール管理システムの動作について、図9から図21を用いてその詳細を説明する。

【0018】まず、図9を用いて部品間通信制御部109の処理の流れについて説明する。ポインティングデバイス等の入力装置101により、ソフトウェア部品が、GUI画面を構成する何れかの部品上に重ね合わされた場合、分岐901でYESと判定される。次に、ソフトウェア部品が、GUI画面を構成するどの部品上に重ね合わされたかを、分岐902～分岐905により判定する。

【0019】図7に示すGUI画面上で、ソフトウェア部品がスケジュール表示領域部品703上に重ね合わされた場合、分岐902でYESと判定され、処理ブロック906で部品間通信制御部109がスケジュール表示領域部品112に対して、重ね合わされたソフトウェア部品を通知する。処理ブロック907は、通知後にスケジュール表示領域部品112が行う処理である。

【0020】ソフトウェア部品がメンバ選択部品701上に重ね合わされた場合、分岐903でYESと判定され、処理ブロック908で部品間通信制御部109がメンバ選択部品110に対して、重ね合わせたソフトウェア部品を通知す

る。処理ブロック909は、通知後にメンバ選択部品110が行う処理である。

【0021】ソフトウェア部品がカレンダー部品702上に重ね合わされた場合、分岐904でYESと判定され、処理ブロック910で部品間通信制御部109がカレンダー部品111に対して、重ね合わせたソフトウェア部品を通知する。処理ブロック911は、通知後にカレンダー部品111が行う処理である。

【0022】ソフトウェア部品が行先・用件流用部品801上に重ね合わされた場合、分岐905でYESと判定され、処理ブロック912で部品間通信制御部109が行先・用件流用部品113に対して、重ね合わせたソフトウェア部品を通知する。処理ブロック913は、通知後に行先・用件流用部品113が行う処理である。

【0023】次に、部品間通信制御部109により重ね合わせたソフトウェア部品が通知された後、GUI画面を構成するそれぞれの部品が行う処理について説明する。

【0024】まず、通知を受けた後のスケジュール表示領域部品112の処理907について図10を用いて説明する。通知を受けた後、分岐1001から分岐1004で重ね合わせたソフトウェア部品の種類により処理を振り分ける。重ね合わせたソフトウェア部品が、メンバ選択部品701のメンバを示すソフトウェア部品(704か705)である場合は、分岐1001でYESと判定され、処理ブロック1005でそのソフトウェア部品が示すメンバの、デフォルトの日付のスケジュールの参照処理を行う。デフォルトの日付は、デフォルト値設定部127に予め設定されている。重ね合わせたソフトウェア部品がカレンダー部品702の日付を示すソフトウェア部品706である場合は、分岐1002でYESと判定され、処理ブロック1006でデフォルトのメンバの、そのソフトウェア部品が示す日付のスケジュールを参照する。デフォルトのメンバはデフォルト値設定部127に予め設定されている。重ね合わせたソフトウェア部品が、行先・用件流用部品801の行先情報を示すソフトウェア部品803の場合、分岐1003でYESと判定され、処理ブロック1007でそのソフトウェア部品が示す行先の情報を新規に登録するスケジュールの行先に設定する処理を行う。重ね合わせたソフトウェア部品が、行先・用件流用部品の用件情報を示すソフトウェア部品の場合、分岐1004でYESと判定され、処理ブロック1008でそのソフトウェア部品が示す用件の情報を、新規に登録するスケジュールの用件に設定する処理を行う。それ以外のソフトウェア部品が重ねられた場合は、何もせずに図9<1>へ戻る。

【0025】通知を受けた後のメンバ選択部品110の処理909について図11を用いて説明する。通知を受けた後、分岐1101と分岐1102とで、重ねられたソフトウェア部品により処理を振り分ける。重ね合わせたソフトウェア部品がスケジュール表示領域部品703のメンバを示すソフトウェア部品(708か709)の場合、分岐1101でYESと

判定され、処理ブロック1103でそのソフトウェア部品が示すメンバのスケジュールをスケジュール画面707上から削除する処理を行う。重ね合わせたソフトウェア部品がスケジュール表示領域703のスケジュールデータを示すソフトウェア部品(710か711)の場合、分岐1102でYESと判定され、処理ブロック1104でメンバ選択部品上701で選択したメンバの、デフォルトの日付のスケジュールに、そのソフトウェア部品が示すスケジュールと同様の内容のスケジュールデータを登録する処理を行う。デフォルトの日付は、デフォルト値設定部127に予め設定されている。それ以外のソフトウェア部品が重ねられた場合は、何もせずに図9<1>へ戻る。

【0026】通知を受けた後のカレンダー部品111の処理911について図12を用いて説明する。通知を受けた後、分岐1201で重ねられたソフトウェア部品により処理を振り分ける。重ね合わせたソフトウェア部品がメンバ選択部品701のメンバを示すソフトウェア部品(704か705)の場合、分岐1201でYESと判定され、処理ブロック1202で選択したメンバの、選択した日付のスケジュールを参照する処理を行う。それ以外のソフトウェア部品が重ねられた場合は、何もせずに図9<1>へ戻る。

【0027】通知を受けた後の行先・用件流用部品113の処理913について図13を用いて説明する。通知を受けた後、分岐1301で重ね合わせたソフトウェア部品により処理を振り分ける。重ね合わせたソフトウェア部品がスケジュール表示領域部品703のスケジュールを示すソフトウェア部品(710か711)の場合、分岐1301でYESと判定され、処理ブロック1302で、そのソフトウェア部品が示すスケジュールデータの行先情報と用件情報を行先・用件流用部品113に登録する処理を行う。それ以外のソフトウェア部品が重ねられた場合は、何もせずに図9<1>へ戻る。

【0028】次に、GUI画面を構成するそれぞれの部品において、振り分けられた個々の処理について詳しく説明する。

【0029】まず、メンバのスケジュール参照処理1005について図14を用いて説明する。部品間通信制御部109により、メンバ選択部品701のメンバを示すソフトウェア部品(704か705)がスケジュール表示領域部品703上に重ね合わされたことが通知されると、処理ブロック1401で、スケジュール表示領域部品112はメンバ選択部品110にそのソフトウェア部品が示すメンバのメンバ情報を問い合わせる。図7では、「グループ1」を示すソフトウェア部品がスケジュール表示領域部品703上に重ね合わされた例を示している。この例の場合、問い合わせの結果として、図2に示す項番4の情報がスケジュール表示領域部品112に返される。次に、分岐1402では問い合わせたメンバ情報の種別203という項目により、そのメンバが個人なのかグループなのかを判定する。図7の例では、図2の項番4の種別203が参照され、その結果メン

バがグループであると判定される。

【0030】メンバが個人である場合は、処理ブロック1403でスケジュールを参照するメンバのメンバ情報を格納する配列に、その個人メンバのメンバ情報を格納する。処理ブロック1404では、スケジュールを参照するメンバの数を示す変数NUMに1を設定する。

【0031】一方、そのメンバがグループの場合、処理ブロック1405で、そのグループに属する全てのメンバのメンバ情報を、メンバ選択部品110に問い合わせる。図7の例の場合、問い合わせの結果として、親のID204が「グループ1」のユーザID201である「GROUP001」となっている項番5と項番6の情報が、スケジュール表示領域部品112へ返される。

【0032】次に、処理ブロック1406でスケジュールを参照するメンバのメンバ情報を格納する配列に、そのグループに属する全メンバのメンバ情報を格納する。処理ブロック1407では、スケジュールを参照するメンバのメンバ数を変数NUMに設定する。図7の例では、この配列に図2の項番5と項番6の情報が格納され、変数NUMには数値2が設定される。

【0033】次に、処理ブロック1408で、スケジュールデータを取得したメンバ数をカウントする変数COUNTを0に設定する。1409の繰り返し処理では、表示するメンバの数だけ次の処理を繰り返す。図7の例では、2回繰り返す。

【0034】処理ブロック1410では、スケジュールを参照するメンバのユーザID301を含み、かつデフォルトの日付を含むスケジュールデータを、スケジュールデータ記憶装置105より取得する。次に、分岐1411でスケジュールを参照するメンバが自分かどうかを、メンバのユーザID201と自分のID格納用バッファ122に格納されている自分のIDとを比較し、判定する。スケジュール参照の対象となるメンバが自分の場合、分岐1411でYESと判定され、処理ブロック1412で、取得した自分の全スケジュールの操作権限401を有りに設定し、そのスケジュールデータをスケジュールデータ格納用バッファ120に格納する。一方、メンバが他人の場合は分岐1411でNOと判定され、処理ブロック1413で、取得したそのメンバの全スケジュールの操作権限401を無しに設定し、そのスケジュールデータをスケジュール格納用バッファ120に格納する。

【0035】図7の例では、まず、項番5のメンバについて上記の処理が行われる。デフォルトの日付を今日の日付(97/10/28)とすると、処理ブロック1410では、ユーザID301が「USER001」であり、日付302が「97/10/28」であるスケジュールデータ、すなわち図3の項番2の情報をスケジュールデータ記憶装置105より取得する。次に分岐1411で、そのメンバが自分かどうかを判定するが、自分のID格納用バッファ122に「USER001」が格納されているとすると、項番5のメンバは自分であると判定され

## 11

る。このため、次の処理ブロック1412で、取得した図2の項番5が示すメンバの全スケジュール、すなわち図3の項番2の情報に操作権限401“有り”を加え、図4の項番1に示す情報をスケジュールデータ格納用バッファ121に格納する。図2の項番6のメンバについては、ユーザID「USER002」が自分のID格納用バッファ122に格納されているID「USER001」と異なるため、分岐1411で他人と判定される。そのため、処理ブロック1413で、取得した図2の項番6が示すメンバの全スケジュール、すなわち図3の項番4の情報に操作権限401“無し”を加え、図4の項番2に示す情報をスケジュール格納用バッファ121に格納する。

【0036】処理ブロック1414で、スケジュールデータを表示するためのスケジュール画面707をスケジュール表示領域上に表示する。最後に処理ブロック1415で、スケジュールデータ格納用バッファ120に格納されているスケジュールデータをスケジュール画面707に表示する。図7の例では、処理ブロック1415で、スケジュール格納用バッファ120に格納されている図4の項番1と項番2のスケジュールデータがスケジュール画面707に表示される。

【0037】尚、ここでは単にスケジュール画面707を表示させた後に、そのスケジュール画面707にスケジュールデータを表示させると説明したが、スケジュール表示領域部品112に、重ね合わされた場所を判定する機能をもたせることで、メンバを示すソフトウェア部品が、スケジュール画面707が表示されている部分に重ね合わせた場合、そのスケジュール画面707に新たなメンバのスケジュールを追加して表示したり、スケジュール表示領域部品703上のスケジュール画面707が表示されていない部分に重ね合わせた場合、新たなスケジュール画面707を開いて、そこにメンバのスケジュールを表示しても良い。

【0038】日付のスケジュール参照処理1006について、図15を用いて説明する。部品間通信制御部109により、カレンダー部品702の日付を示すソフトウェア部品706がスケジュール表示領域部品703上に重ね合わされたことが通知されると、処理ブロック1501で、そのソフトウェア部品が示す日付の情報を、カレンダー部品111に問い合わせる。例えば、1997年10月28日を示すソフトウェア部品がスケジュール表示領域部品703に重ね合わされた場合、問い合わせの結果として、1997/10/28という日付の情報をスケジュール表示領域部品112に返す。

【0039】処理ブロック1502では、デフォルトのメンバのユーザIDと、問い合わせた日付を含むスケジュールデータをスケジュールデータ記憶装置105より取得し、上記スケジュール参照処理の場合と同様に操作権限401を設定し、スケジュールデータ格納用バッファ120に格納する。例えば、デフォルトのメンバが自分であり、自分のユーザIDが「USER001」と仮定する。この場合、ユ

## 12

ーザID301が「USER001」であり、かつ日付302が「97/10/28」である図3の項番2に示すスケジュールデータを取得する。操作権限401については、自分のスケジュールであるため「有り」に設定し、図4の項番1に示すスケジュールデータを、スケジュールデータ格納用バッファ120に格納する。

【0040】最後に、処理ブロック1503で、取得したスケジュールデータをスケジュール画面707に表示する。上記の例の場合は、スケジュールデータ格納用バッファ120に格納された図4の項番1に示すスケジュールデータをスケジュール画面707に表示する。

【0041】行先情報を、新規登録するスケジュールデータに設定する処理1007について図16を用いて説明する。部品間通信制御部109により、行先・用件流用部品801の行先情報を示すソフトウェア部品803がスケジュール表示領域部品802上に重ね合わされたことが通知されると、処理ブロック1601で、そのソフトウェア部品が示す行先情報を行先・用件流用部品113に問い合わせる。例えば、図8の行先・用件流用部品801上の「会議室A」を示すソフトウェア部品803を、スケジュール表示領域部品802に重ね合わせた場合、問い合わせの結果として図6(a)の項番1の情報がスケジュール表示領域部品112に返される。

【0042】次に、分岐1602で、スケジュール表示領域部品802上にスケジュール新規登録画面805が表示されているかどうかを判定する。スケジュール新規登録画面805が表示されている場合は、処理ブロック1603で新規に登録するスケジュールデータの行先402に、重ね合わせたソフトウェア部品が示す行先情報を設定する。また、スケジュール新規登録画面805の行先806の欄に、その行先情報を表示する。

【0043】一方、スケジュール新規登録画面805が表示されていない場合は、処理ブロック1604で、スケジュール新規登録のための領域をスケジュールデータ格納用バッファ120内に確保し、初期化する。処理ブロック1605では、重ね合わせたソフトウェア部品が示す行先情報を、新規に登録するスケジュールデータの行先402に設定する。また、行先806が設定されたスケジュール新規登録画面805を表示する。

【0044】上記の例では、スケジュール新規登録画面805が表示されている場合は、処理ブロック1603で、表示されていない場合は処理ブロック1605で、新規スケジュールデータの行先402に、「会議室A」が設定され、図8に示すようにスケジュール新規登録画面805の行先806の欄に、「会議室A」が表示される。

【0045】用件情報を、新規登録するスケジュールデータに設定する処理1008について図17を用いて説明する。部品間通信制御部109により、行先・用件流用部品801の用件情報を示すソフトウェア部品804がスケジュール表示領域部品802上に重ね合わされたことが通知され

10

20

30

40

50



ると、処理ブロック1701で、そのソフトウェア部品が示す用件情報を先行・用件流用部品113に問い合わせる。例えば、図8の先行・用件流用部品801上の「進捗会議」を示すソフトウェア部品804を、スケジュール表示領域部品802に重ね合わせた場合、問い合わせの結果として図6(b)の項番1の情報がスケジュール表示領域部品112に返される。

【0046】次に、分岐1702で、スケジュール表示領域部品802上にスケジュール新規登録画面805が表示されているかどうかを判定する。スケジュール新規登録画面805が表示されている場合は、処理ブロック1703で新規に登録するスケジュールデータの用件403に、重ね合わせたソフトウェア部品が示す用件情報を設定する。また、スケジュール新規登録画面805の用件807の欄に、その用件情報を表示する。

【0047】一方、スケジュール新規登録画面805が表示されていない場合は、処理ブロック1704で、スケジュール新規登録のための領域をスケジュールデータ格納用バッファ120内に確保し、初期化する。処理ブロック1705では、重ね合わせたソフトウェア部品が示す用件情報を、新規に登録するスケジュールデータの用件403に設定する。また、用件807が設定されたスケジュール新規登録画面805を表示する。

【0048】上記の例では、スケジュール新規登録画面805が表示されている場合は、処理ブロック1703で、表示されていない場合は処理ブロック1705で、新規スケジュールデータの用件403に、「進捗会議」が設定され、スケジュール新規登録画面805の用件807の欄に、「進捗会議」が表示される。

【0049】スケジュール画面707からメンバのスケジュールを削除する処理1103について図18を用いて説明する。部品間通信制御部109により、スケジュール表示領域部品703のメンバを示すソフトウェア部品(708か709)がメンバ選択部品701上に重ね合わされたことが通知されると、処理ブロック1801で、スケジュール表示領域部品112に対して、そのソフトウェア部品が示すメンバのスケジュールをスケジュール画面707から削除する指示を出す。

【0050】指示を受けたスケジュール表示領域部品112では、処理ブロック1802で、そのメンバのユーザID404を含むスケジュールデータをスケジュール格納用バッファ120より削除する。

【0051】例えば、図7のスケジュール画面707から口君を示すソフトウェア部品709をメンバ選択部品701へ重ね合わせた場合、処理ブロック1801で、メンバ選択部品110からスケジュール表示領域部品112へ口君のスケジュールを削除するように指示を出す。

【0052】指示を受けたスケジュール表示領域部品112は、処理ブロック1802で、口君のユーザID404「USER002」を含むスケジュールデータ、すなわち図4の項番2の

情報を、スケジュールデータ格納用バッファ120から削除する。

【0053】最後に、処理ブロック1803で、スケジュール格納用バッファ120の変更内容をスケジュール画面707に反映させるために、スケジュール画面707を再描画する。上記の例では、処理ブロック1803スケジュール画面に、イ君のスケジュールのみが表示される。

【0054】選択したスケジュールをメンバのスケジュールに登録する処理1104について図19を用いて説明する。部品間通信制御部109により、スケジュール表示領域部品703のスケジュールを示すソフトウェア部品(710か711)がメンバ選択部品701上に重ね合わされたことが通知されると、処理ブロック1901で、メンバ選択画面701で選択されたメンバのメンバ情報をスケジュール表示領域部品112に渡す。処理ブロック1902では、スケジュール表示領域部品112に対し、そのメンバのスケジュールに、重ね合わせたソフトウェア部品が示すスケジュールデータと同じ内容のデータを登録するように指示を出す。

【0055】指示を受けたスケジュール表示領域部品112は、処理ブロック1903で、スケジュールデータ格納用バッファ120に、メンバのスケジュール登録用の領域を確保し、初期化する。処理ブロック1904で、スケジュールデータのユーザID404に、メンバ選択部品701上で選択されたユーザIDを設定する。また、スケジュールデータの日付405には、デフォルトの日付を設定する。デフォルトの日付は、デフォルト値設定部127に設定されている。処理ブロック1905では、スケジュールデータのユーザID404と日付405以外の項目は、重ね合わせたソフトウェア部品が示すスケジュールデータと同じ内容を設定する。最後に、処理ブロック1906で、登録したメンバのスケジュールデータをスケジュールデータ記憶装置105に追加する。

【0056】例えば、図7のスケジュール画面707上の口君の97/10/28のスケジュールを示すソフトウェア部品711を、イ君が選択されている状態のメンバ選択部品701上に重ね合わせた場合、処理ブロック1901で、図2の項番5に示すイ君のメンバ情報がメンバ選択部品110からスケジュール表示領域部品112へ渡される。次の処理ブロック1902で、イ君のスケジュールに、図4の項番2に示す口君の1997/10/28のスケジュールデータを登録するよう指示を出す。

【0057】指示を受けたスケジュール表示領域部品112は、処理ブロック1904で、新規に登録するスケジュールデータのユーザID404に、イ君のユーザID「USER001」を設定する。また、デフォルトの日付が、選択したスケジュールデータの日付情報と設定されているとすれば、日付には1997/10/28が設定される。処理ブロック1905で、それ以外の項目には、重ね合わせたソフトウェア部品711が示すスケジュールデータ、すなわち図4の項番2

と同様の内容を設定する。ここでイ君に登録したスケジュールデータは、処理ブロック1906で、スケジュールデータ記憶装置105に追加される。

【0058】選択されたメンバの、選択された日付のスケジュールを参照する処理1202について図20を用いて説明する。部品間通信制御部109により、メンバ選択部品701のメンバを示すソフトウェア部品(704か705)がカレンダー選択部品702上に重ね合わされたことを通知されると、処理ブロック2001で、重ね合わせたソフトウェア部品が示すメンバのメンバ情報をメンバ選択部品110に問い合わせる。次に、処理ブロック2002で、そのメンバ情報と、カレンダー部品702上で選択された日付706の情報をスケジュール表示領域部品112へ渡す。次の処理ブロック2003では、スケジュール表示領域部品112に対して、渡した情報をもとに選択したメンバの、選択した日付のスケジュールを参照するよう指示を出す。

【0059】指示を受けたスケジュール表示領域部品112は、処理ブロック2004で、選択したメンバのユーザID301を含み、かつ選択した日付302を含むスケジュールデータを、スケジュールデータ記憶装置105から取得する。また、メンバのスケジュール参照処理1005で述べたように、取得したスケジュールデータに操作権限401を加えて、スケジュールデータ格納用バッファ120に格納する。最後に、処理ブロック2005で、スケジュールデータ格納用バッファ120に格納されたスケジュールデータを表示する。

例えば、イ君を示すソフトウェア部品を、97/10/28の日付が選択されているカレンダー部品702へ重ね合わされた場合、処理ブロック2001で、イ君のメンバ情報をメンバ選択部品110に問い合わせ、図2の項番5に示すようなメンバ情報を得る。次に、処理ブロック2002で、図2の項番5に示すイ君のメンバ情報と、カレンダー部品702で選択された97/10/28の日付情報をスケジュール表示領域部品112へ渡す。処理ブロック2003では、イ君の97/10/28のスケジュールを参照するようスケジュール表示領域部品112に指示を出す。

【0060】指示を受けたスケジュール表示領域部品112は、処理ブロック2004で、イ君のユーザID301と、97/10/28の日付302を含む図3の項番2に示すスケジュールデータを、スケジュールデータ記憶装置105から取得する。また、取得したスケジュールデータに操作権限401を上記した方法で設定し、スケジュールデータ格納用バッファ120に格納する。最後に、処理ブロック2005で、スケジュールデータ格納用バッファ120に格納された、図4の項番1に示すスケジュールデータを表示する。

【0061】行先・用件の登録処理1302について図21を用いて説明する。部品間通信制御部109により、スケジュール表示領域部品703のスケジュールを示すソフトウェア部品(710か711)が行先・用件流用部品801上に重ね合わされたことが通知されると、処理ブロック2101で、

重ね合わせたソフトウェア部品が示すスケジュールデータを、スケジュール表示領域部品112へ問い合わせる。問い合わせたスケジュールデータを基に、まず行先情報を登録し、次に用件情報を登録する。行先情報と用件情報を登録する順番は逆であっても良い。

【0062】分岐2102では、そのスケジュールデータの行先が設定されており、かつ既に登録されていないかどうか判定する。両方の条件を満たす場合のみ、その行先情報を次の手順で登録する。処理ブロック2103では、行先・用件格納用バッファ124に行先情報を登録するための領域を確保する。処理ブロック2104では、重ね合わせたソフトウェア部品が示すスケジュールデータの行先情報と自分のユーザIDを、それぞれ行先602とユーザID601に格納する。処理ブロック2105では、登録した内容を、行先・用件情報記憶装置106に追加する。

【0063】次に、分岐2106では、そのスケジュールデータの用件が設定されており、かつ既に登録されていないかどうか判定する。両方の条件を満たす場合のみその用件情報を次の手順で登録する。処理ブロック2107では、行先・用件格納用バッファ124に用件情報を登録するための領域を確保する。処理ブロック2108では、重ね合わせたソフトウェア部品が示すスケジュールデータの用件情報と自分のユーザIDを、それぞれ用件604とユーザID603に格納する。処理ブロック2109では、登録した内容を行先・用件情報記憶装置106に追加する。最後に、処理ブロック2110で、登録した行先情報と用件情報を示すソフトウェア部品を、行先・用件流用部品801上に表示する。

【0064】例えば、図7のスケジュール画面707に表示されているイ君の97/10/28のスケジュールを示すソフトウェア部品710を、行先・用件流用部品801に重ね合わせた場合、処理ブロック2101で、図4の項番1に示すスケジュールデータが行先・用件流用部品113に渡される。イ君が図6(a)に示す行先情報を既に登録しているとする、図4の項番1のスケジュールデータの行先402は「会議室A」となっており、この情報は図6(a)の項番1の行先602に存在するため、分岐2102でNOと判定される。よってこの例の場合、行先情報の登録は行わない。

【0065】用件の登録については、イ君が図6(b)に示す用件情報を既に登録しているとする、図4の項番1のスケジュールデータの用件403は、「レビュー」となっており、この情報は行先・用件格納用バッファ124に登録されていないため、分岐2106ではYESと判定される。次の処理ブロック2108では、「レビュー」と「USER001」を、それぞれ用件604と、ユーザID603に設定する。処理ブロック2109では、その用件情報を行先・用件情報記憶装置106に追加する。最後に、イ君の登録した用件「レビュー」を示すソフトウェア部品を行先・用件流用部品801上に表示する。

【0066】尚、本発明は上述した実施形態に限られる

ものではない。例えば、カレンダー部品702上の日付を示すソフトウェア部品を、メンバ選択部品701に重ね合わせた場合、そのソフトウェア部品が示す日付の、メンバ選択部品701で選択されたメンバのスケジュール参照処理を選択することも可能である。これは次のような手順で実現できる。メンバ選択部品110がカレンダー部品111に、重ね合わせたソフトウェア部品が示す日付の情報を問い合わせる。次に、問い合わせた日付の情報と、メンバ選択部品701で選択されているメンバのメンバ情報とをスケジュール表示領域部品112に渡す。また、スケジュール表示領域部品112に対して、渡した情報を基に、選択したメンバの、選択した日付のスケジュールの参照処理を行うよう指示を出す。指示を受けたスケジュール表示領域部品112は、指定されたメンバの、指定された日付のスケジュール参照処理を行う。

【0067】また、スケジュール参照処理に関して、重ね合わせるソフトウェア部品が一つの場合を説明したが、複数のソフトウェア部品を重ね合わせても良い。この場合、重ね合わせるソフトウェア部品の数は問わない。これは、図14のフローの分岐1402から繰り返しブロック1409までの処理を、重ね合わせたソフトウェア部品の数だけ繰り返すことで実現できる。

【0068】また、自分のID格納用バッファ122と、デフォルト値設定部127は、スケジュール表示領域部品112に含むと説明したが、これはスケジュール表示領域部品に含ませる必要はなく、システム内であればどこに配置しても良い。

【0069】また、スケジュールデータ管理部121が、スケジュールデータ記憶装置105とのデータのやりとりに関する処理を行うと説明したが、これらの処理を行う処理部は、システム内であればどこに配置しても良い。また、メンバ情報管理部115、暦情報管理部118、行先・用件管理部125についても同様である。

【0070】また、GUI画面を構成する部品の配置は、図7のようなレイアウトにする必要はなく、自由に配置しても良い。

【0071】また、ソフトウェア部品の重ね合せにより、ソフトウェア部品とGUI画面を構成する部品との関連づけを行い、それにより処理を選択すると説明したが、ソフトウェア部品とGUI画面を構成する部品との関連づけができれば、別の操作方法であっても良い。

【0072】また、メンバのスケジュール参照処理時のスケジュールの操作権限401の設定に関して、他人のスケジュールは操作権限「無し」に設定すると説明したが、上司・秘書関係などを示すテーブルを用意し、自分の上司のスケジュールは、操作権限401を「有り」に設定しても良い。また、スケジュールデータに、そのスケジュールを登録したメンバを格納する項目を設け、他人のスケジュールであっても、自分がその人に登録したスケジュールであれば、そのスケジュールの操作権限401

を「有り」に設定しても良い。

【0073】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、ソフトウェア部品とGUIを構成する部品との重ね合せという簡単な操作で、スケジュール管理システムの主要な作業が行える。また、スケジュールを参照したいメンバをスケジュール表示領域に重ね合せると、そのメンバのスケジュールが表示される等、誰にでもイメージしやすい覚えやすい操作になっている。このように、本発明により、簡単かつ覚えやすい操作方法を提供できるため、不慣れなユーザでも比較的短時間で主要な操作を習得できるようになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明にかかわるスケジュール管理システムの一実施例のシステム構成図である。

【図2】メンバ情報のデータ構成図である。

【図3】スケジュール記憶装置に記憶されているスケジュールデータのデータ構成図である。

【図4】スケジュールデータ格納用バッファに格納されているスケジュールデータのデータ構成図である。

【図5】行先・用件情報記憶装置に記憶されている行先情報および用件情報のデータ構成図である。

【図6】行先・用件格納用バッファに格納されている行先情報および用件情報のデータ構成図である。

【図7】メンバのスケジュールを表示したときの画面例である。

【図8】行先情報を流用したときの画面例である。

【図9】部品間通信制御部が行う処理のフローチャートである。

【図10】スケジュール表示領域部品が行う処理のフローチャートである。

【図11】メンバ選択部品が行う処理のフローチャートである。

【図12】カレンダー部品が行う処理のフローチャートである。

【図13】行先・用件流用部品が行う処理のフローチャートである。

【図14】メンバのスケジュール参照処理のフローチャートである。

【図15】日付のスケジュール参照処理のフローチャートである。

【図16】新規登録するスケジュールデータに行先情報を流用する処理のフローチャートである。

【図17】新規登録するスケジュールデータに用件情報を流用する処理のフローチャートである。

【図18】スケジュール画面から選択したメンバのスケジュールを削除する処理のフローチャートである。

【図19】選択したメンバの、選択した日付のスケジュールを参照する処理のフローチャートである。

【図20】選択した日付にスケジュールを複写する処理

のフローチャートである。

【図21】行先・用件の登録処理のフローチャートである。

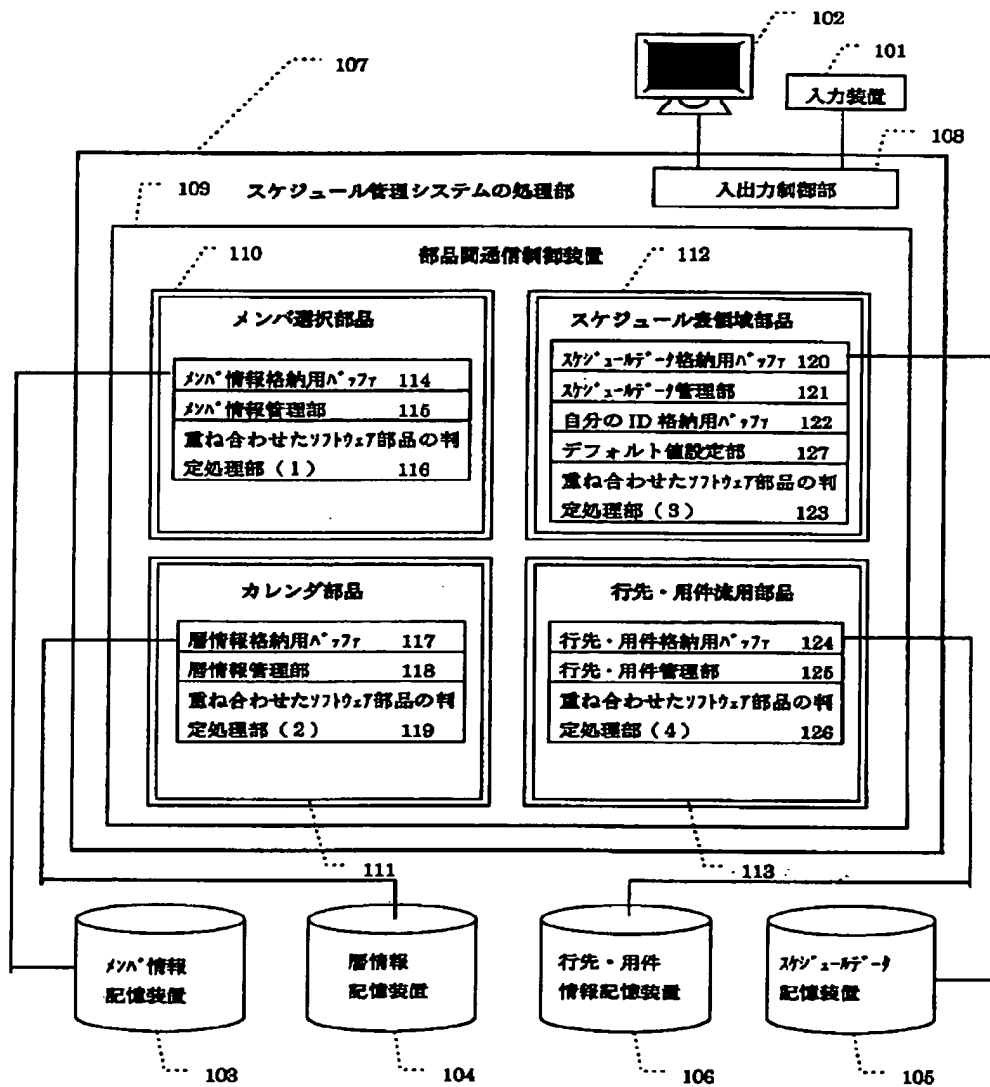
【符号の説明】

101：入力装置、102：表示装置、103：メンバ情報記憶

装置、104：暦情報記憶装置、105：スケジュールデータ記憶装置、106：行先・用件情報記憶装置、109：部品間通信制御部、110：メンバ選択部品、111：カレンダー部品、112：スケジュール表示領域部品、113：行先・用件流用部品。

【図1】

図1



【図 2】

図 2

項目	ユーザ(グループ)ID	ユーザ(グループ)名	種別	親のID
1	J1GYOBU001	A事業部	グループ	
2	BUSTO001	a部	グループ	J1GYOBU001
3	BUSTO002	b部	グループ	J1GYOBU001
4	GROUP001	1グループ	グループ	BUSTO002
5	USER001	イ君	個人	GROUP001
6	USER002	ロ君	個人	GROUP001
.	.	.	.	.
.	.	.	.	.

【図 3】

図 3

項目	ユーザID	日付	開始時間	終了日時	用件	行先
1	USER001	97/10/14	10:00	14:00	議会	会議室 1
2	USER001	97/10/28	10:00	12:00	レビュー	会議室 A
3	USER002	97/10/15	9:00	13:00	部会	会議室 2
4	USER002	97/10/28	13:00	18:00	研修	会議室 B
.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.

【図 5】

図 5

【図 4】

図 4

項目	ユーザID	日付	開始時間	終了時間	用件	行先	操作権限
1	USER001	97/10/28	10:00	12:00	レビュー	会議室 A	有り
2	USER002	97/10/28	13:00	16:00	研修	会議室 B	無し
.	.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.	.

(a)

(b)

【図 6】

図 6

項目	ユーザID	行先
1	USER001	会議室 A
2	USER001	会議室 B
3	USER001	セミナー A
.	.	.
.	.	.

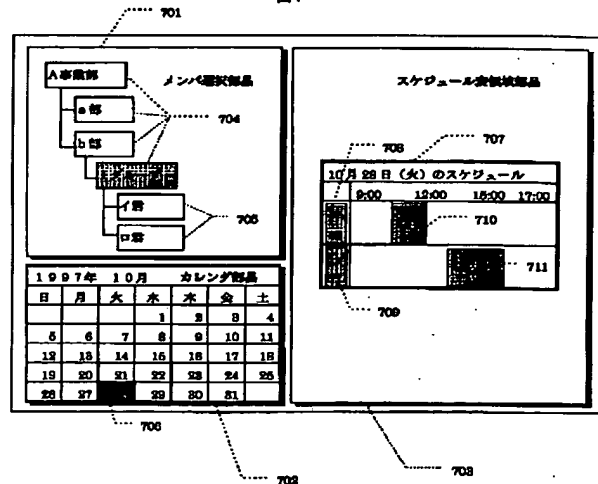
(a)

項目	ユーザID	用件
1	USER001	選考会議
2	USER001	設計レビュー
3	USER001	研修会
.	.	.
.	.	.

(b)

【図 7】

図 7

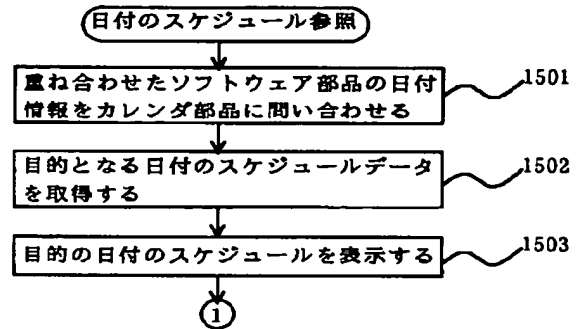


【図8】

図8

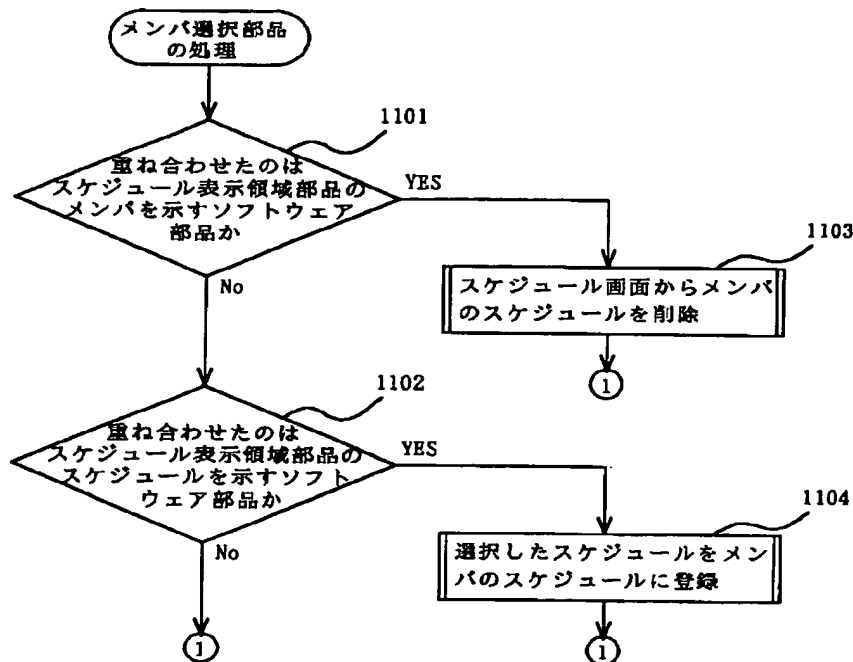
【図15】

図15



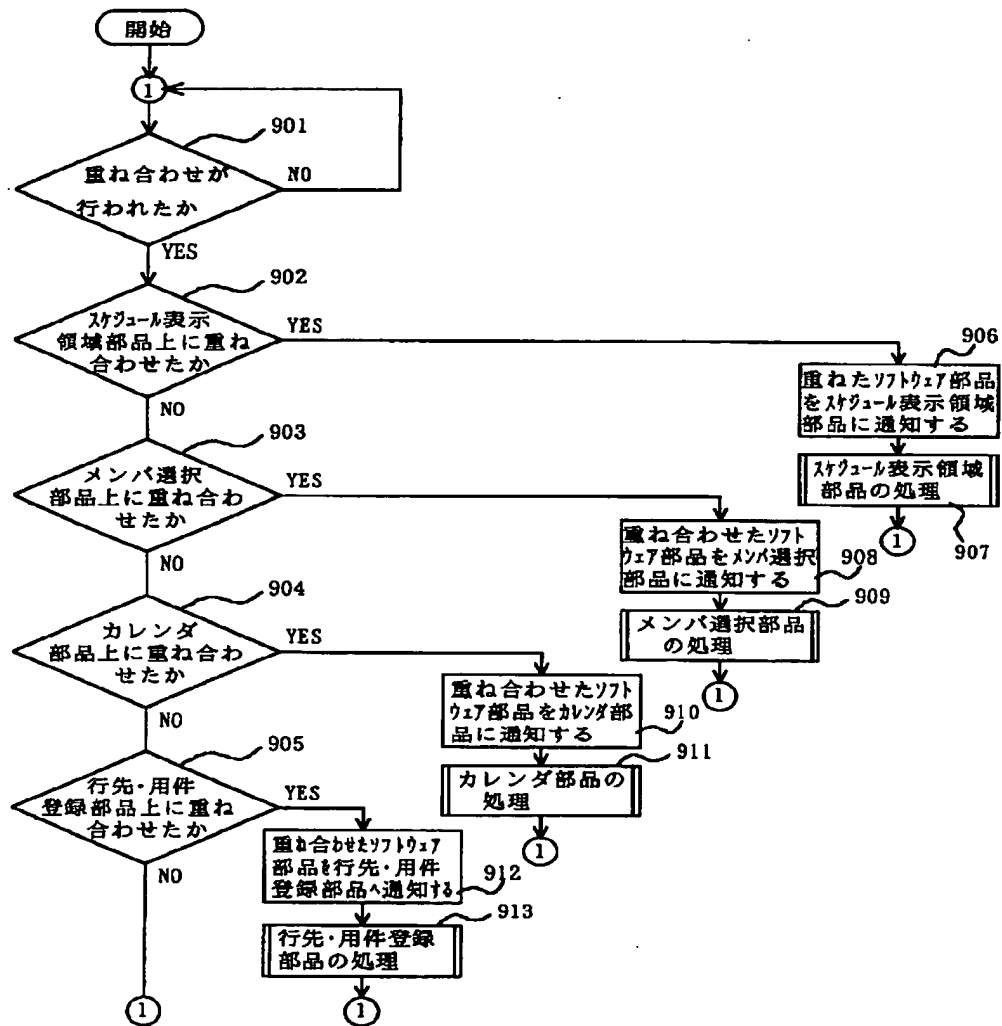
【図11】

図11



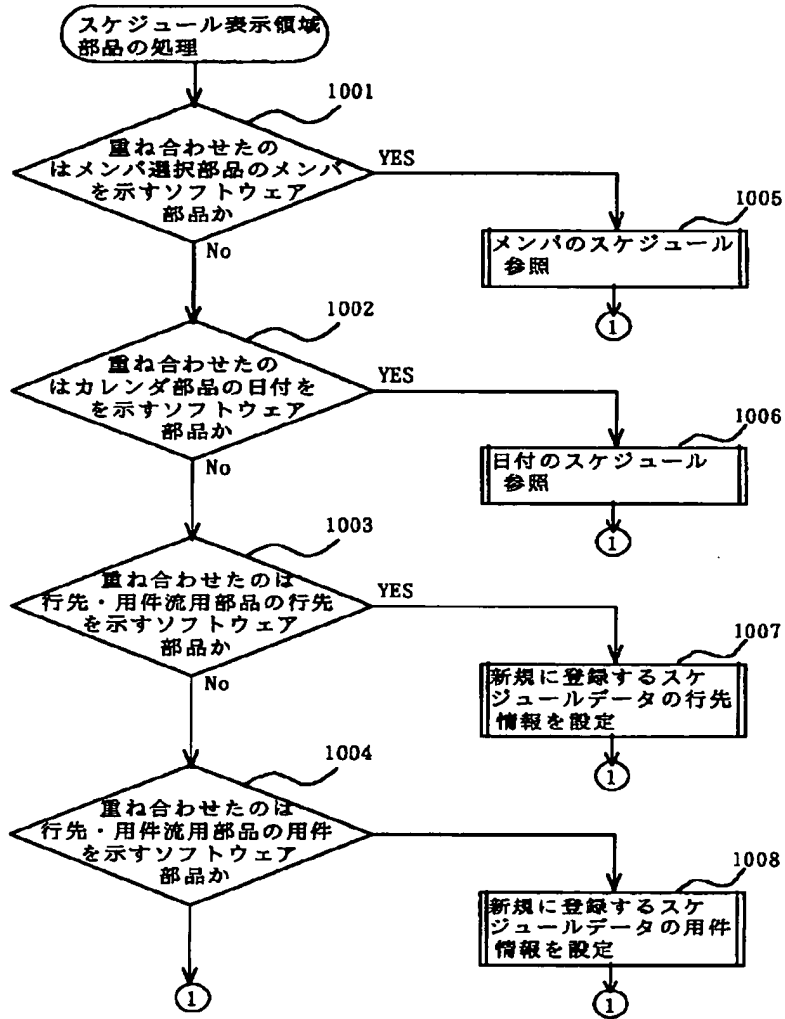
【図9】

図9



【図10】

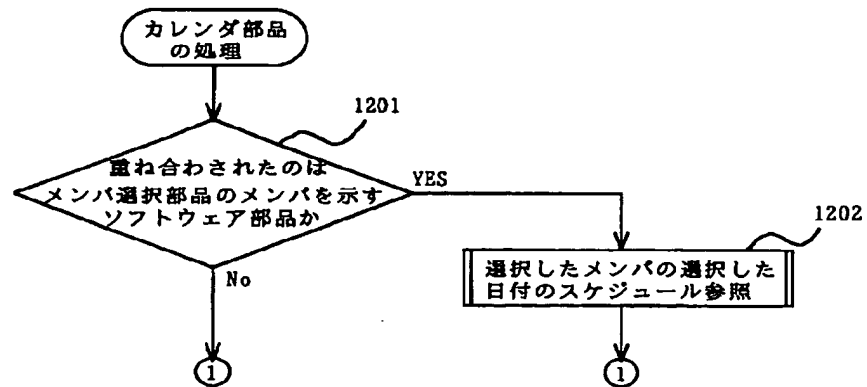
図10





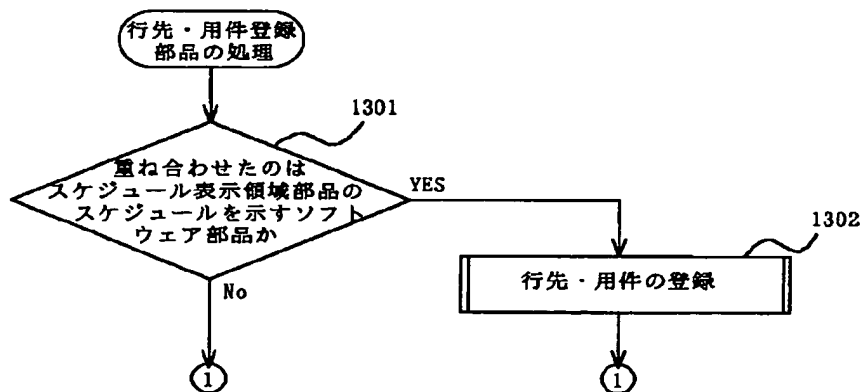
【図12】

図12



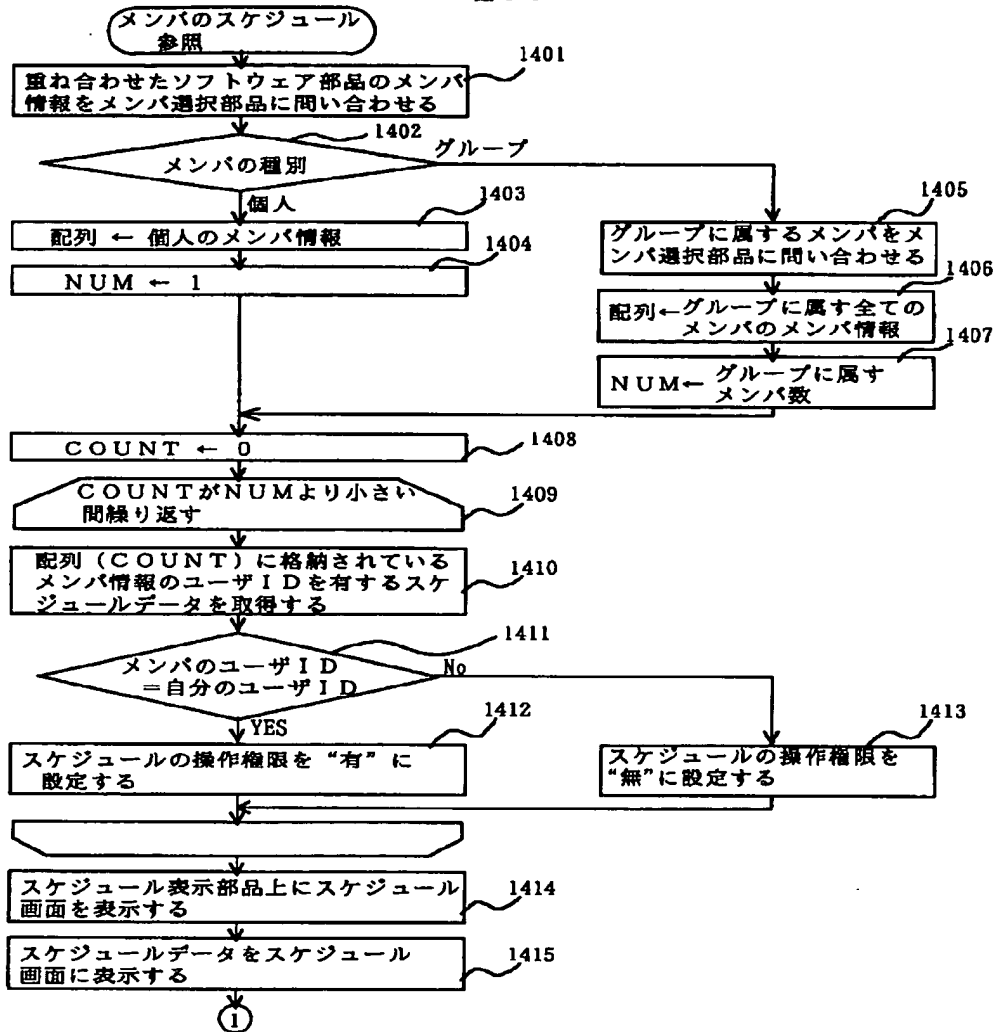
【図13】

図13



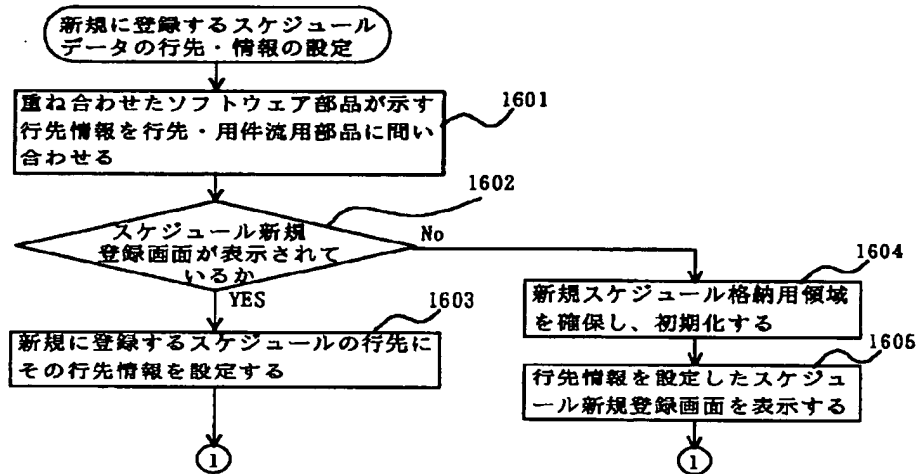
【図14】

図14



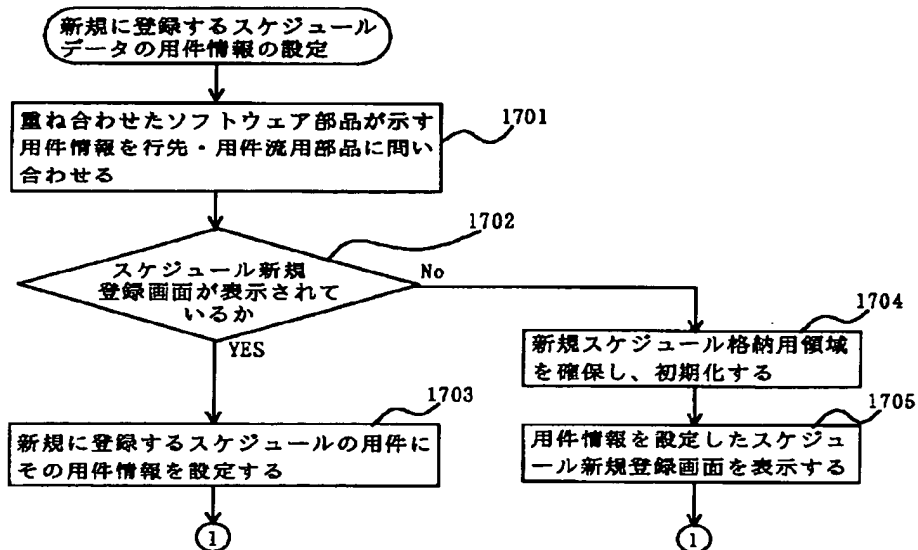
【図16】

図16



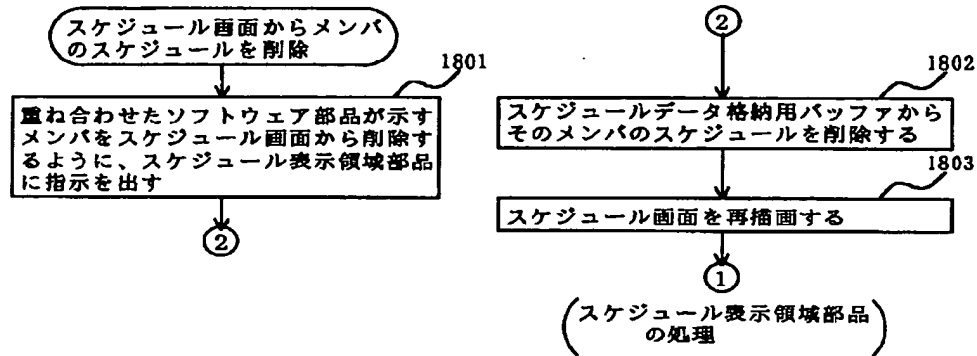
【図17】

図17



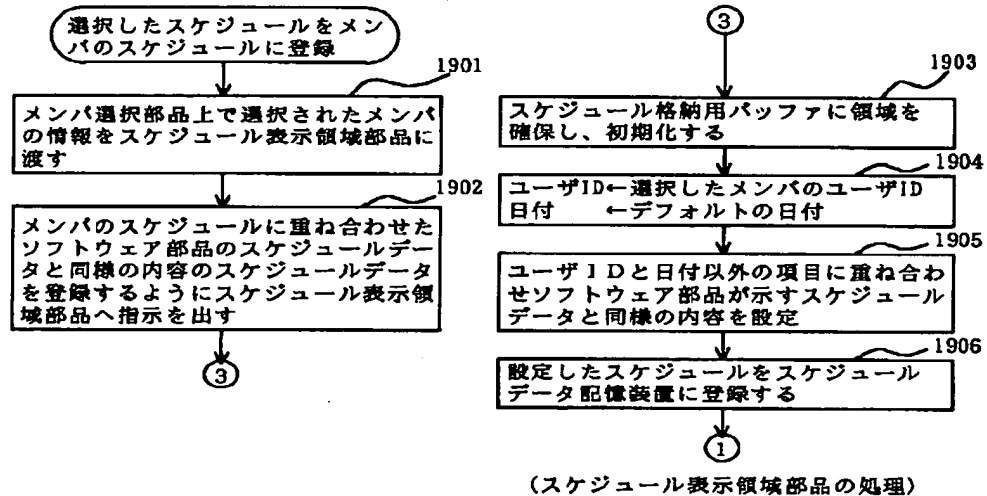
【図18】

図18



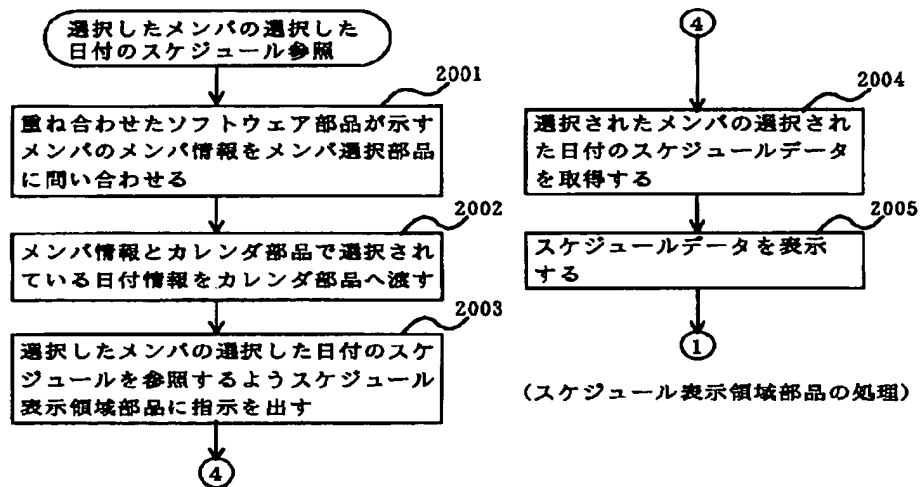
【図19】

図19



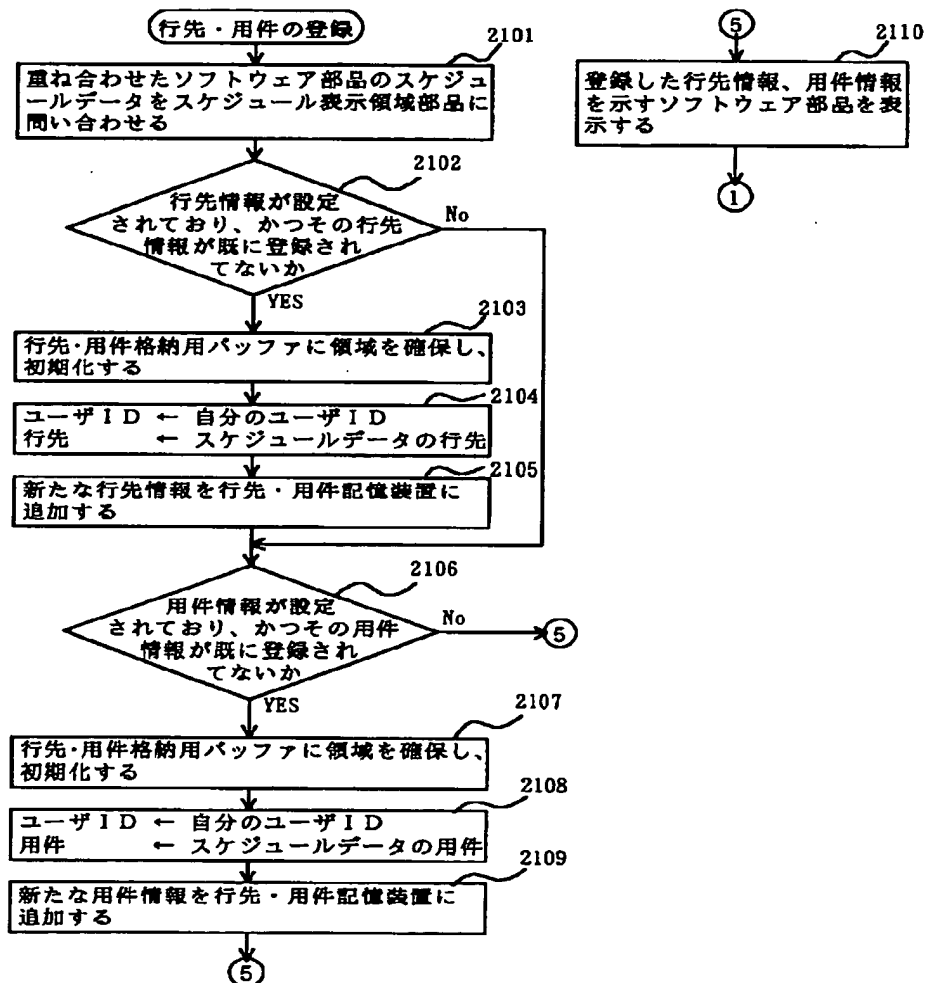
【図20】

図20



【図21】

図21



## 【手続補正書】

【提出日】平成11年3月29日

## 【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】日付、時間、用件の情報を含むスケジュールデータを格納するスケジュールデータ記憶装置と、メ

ンバ情報を格納するメンバ情報記憶装置と、暦情報を格納する暦情報記憶装置と、GUI画面上の任意の位置を指定するポインティングデバイス等の入力装置と、部品を含むGUI画面を表示する表示手段と、該入力装置を用いてGUI画面を構成するある部品上の移動可能なソフトウェア部品を選択し、該ソフトウェア部品を移動して他のGUI画面を構成する部品に重ね合わせた場合、該ソフトウェア部品を重ね合わせたことを移動先の部品に伝える部品間通信制御部とを具備し、ソフトウェア部品をGUI

画面を構成するある部品からGUI画面を構成する別の部品へ重ね合わせたとき、該部品間通信制御部から通知さ

れたソフトウェア部品の種類により処理を制御することを特徴とするスケジュール管理システム。